



## 教育条件の整備と 教職員の多忙化解消

### 市町教委・校長会への後期要請を行う

尾北教方は、11月に、人事異動に関する要請と、来年度に向けてのいくつかの重要課題に関する要請を、各市町教委および丹波地区小中学校校長会に對して行いました。現状と今後の課題について考えます。

## 育休明けの異動 改善進む

人事異動は、本人と家族の生活全体に影響を及ぼす重要な労働条件なので、きちんと本人の話を聞き、間違いなく教育委員会に具申することが校長に求められています。また、希望に沿わない場合が生じる恐れがあるときは、早めに本人に打診するなど、教育現場にふさわしく、血の通った人事にしていくことが大切です。

人事異動で改善されたこととして、これまで育休明けで新任から6年、あるいは現任校で10年を越える復帰となる際には、新しい職場に異動しなければならず、本人にとっては、何年も教育現場から離れていて不安な気持ちのまま異動という

## スクールソーシャルワーカー 配置進む

状況が見られました。しかし、それが、本人が希望すれば現任校に復帰できることになりました。本人にとっても学校にとってもプラスになる改善だと言えます。

貧困問題をはじめ、子どもの家庭環境に関わる問題では、担任だけでは対応しきれない状況が増えてきています。そうした際のスクールソーシャルワーカーの必要性が増してきています。

県も補助金を出す制度を設けていますが、全ての市町での配置が早急に求められています。江南市と扶桑町ですでに配置されていたのが、犬山市でも1名配置されました。そして、岩倉市や大口町でも来年度

に向けての配置の方向が示されました。さらに、江南市と犬山市では2名体制にする方向も示されました。困っている学校現場を救うための配置となることが求められています。

## 英語教科化 無理なく行う

英語の教科化に向けての対応の検討がそれぞれの学校や教育委員会で進められています。担任任せにしないよう、専科教員の配置やALT・NETの増員を組合から教育委員会に要請しています。

英語専科の正規教員が県から加配された小学校では、専門的に英語の授業を行ってもらえるため、大変助かっているという声が聞かれます。しかし、英語の専科教員は、愛知県の小学校約700校中42名しか配置されていないため、尾北でも限られた学校だけしか配置されていません。国や県がもっと専科教員を増やすことが求められています。

また、英語の授業時数確保については、子どもと教職員の学校生活のリズムを大切にするため、現在の日課の中で無理なく行うことが重要です。

帯タイムの活用、クラブ・委員会の時間活用、掃除をなくす日を設けるなど、各学校や市町でさまざまに試行錯誤しながら取り組まれています。いずれにせよ、全職員で話し合う場をきちんと持ち、納得を大切にして取り組むことが大切だと言えます。

## 道徳教科化 徳目を押し付けない

小学校での道徳の教科化が今年度から始まり、教科書を使っている授業が行われています。しかし、道徳は、教科とはいっても国語や算数などの教科とは違います。「これができる(分かる)ようにしよう」といったことを強く意識して授業を行うと、それに合わない子どもの考えを排除したり、子どもの心を傷つけたりします。内容項目(徳目)を押し付けたり、「あなたはできていますか?」のような結果主義や態度主義の授業になったりせず、子どもたちのそれぞれの思いを大切に、さまざまな視点から考えを深め広げられる授業にしていきたいものです。

## 支援員 中学校にも

発達障害などで、学習や生活に支援が必要な子どもたちは依然多く、支援員のさらなる拡充と、通級指導教室の増設が強く求められています。各市町では、少しずつでも拡充する方向で取り組まれています。一方、中学校の支援員は、配置されているところもありますが、尾北全体としては不十分な状況が見られます。

中学校は、進路進学と学力面で悩む生徒も多く、個別に支援が必要な生徒も見られます。中学校での支援員の配置と拡充が求められています。

# 学校訪問 簡素化進む

多忙化解消に向けての業務内容簡素化の取り組みとして、学校訪問の見直しを要請してきました。各市町教育委員会からは、来年度の学校訪問に関して、午後日程の簡素化を図る方向で改善の方向が示されました。

また、公開授業の指導案では、すでにA4片面のみで作成している学校も見られます。指導案は各学校で検討することになっていきますので、簡素化に向けて話し合いを、各学校で進めることが求められています。

さらに、当日の接待も、お茶と給食の試食のみにして改善を進めているところも見られます。

一方、饅頭やクッキー、紅茶やコーヒー、デザートやケーキなど、時間ごと何を出すかのスケジュールを作成し接待するといった、昔ながらの過剰接待が続いているところもまだあります。

教育委員会は業務として来校しているのに、特別な接待は必要なく、社会的には、むしろ問題視される恐れもあります。ぜひ改善を進めたいものです。



# 割振変更簿の 活用を 部活動 無理をしない

県教委の多忙化解消プランでは「小・中学校の校長が割振変更簿の整備と運用を行う」と示され、尾北でも管内全校に割振変更簿が設置されつつあることが、各市町教委や校長会から明らかにされました。

しかし、職場によっては、先生たちから「割振変更簿の話は、管理職から説明がないし、見たこともない」「割振変更簿があれば、日常でも時間休をとりたいたいとき、年休でなく、たまっている割り振りをまず消化しやすくなるので、ぜひ活用してほしい」といった声が聞かれます。

割り振りを日常でもとりやすくするためには、割振変更簿の設置と使い方の説明が、管理職から全職員にきちんと説明されなければなりません。

そして、例えば、職員会議が延長した際など、割り振りが必要になった時点で、「本日の職員会議が延長したので、1時間の割り振りをとってください」と、「割り振り対象の業務」と「割り振りの日時数」が校長からきちんと指示されることも必要です。

それに合わせて各職員は、割振変更簿に記入して、管理職に申請できます。学校によっては、割振変更簿と、使い方の例が示されたプリントを、年休などの個人ファイルと一緒に綴じてあるところもあります。せっかく設置された割振変更簿が職員に役立つようにしていきたいものです。

# 部活動 無理をしない

部活動の見直しが進む中、組合としても「朝練習の中止」「顧問を押し付けられない」などを市町教委と校長会に要請しました。朝練習は、大山市で中止の方向で実際に取り組まれており、他の市町でも、朝練習を含め、部活動を無理のない形で取り組むよう検討が続けられています。

丹波地区小中学校校長会で定められた改善目標については、全ての市町でそれに沿って改善が進められ、さらには、平日でも午後は2回やらない日を設けるなど、さらなる改善を進めているところもあります。「無理をしないよう、工夫して改善を進めていく」という方向がどの市町でも示されました。

# パワハラ防止 県教委通知の配付を

パワーハラスメント（パワハラ）は、職員の人格を傷つける重大な人権問題につながり、教育現場においては特にあってはならないことです。

パワハラは、立場や職務で上位に立つ者が行う行為であり、パワハラがあっても本人は言いにくく、見えにくい問題です。それだけに、もし、そういった事態になったら、どう対応したらいいかを職

員全体に周知することが求められます。県教委も問題の重要性を認識し、2018年3月にパワハラ防止に関する通知を新たに出し、周知することとなっています。学校現場では、校長からパワハラについて話があった職場と、まだ話がない職場があります。また、口頭だけの説明でなく、通知文書を印刷して全職員に配付し、もしものときの対応のために各自が文書を持っていることも必要です。全ての職場で県教委のパワハラ防止の通知文書を配付して職員に説明し、周知することが早急に求められています。

# 全国学力 英語調査問題あり

中学校での全国学力テストの英語調査に関しては、予備調査で「設定手順及び回収手順」を筆頭に、「システム不具合等」「実施手順」など準備段階から事後処理まで多数の問い合わせが殺到しました。しかし、文科省は来年度、全ての中学校で英語調査を行う方針です。中学校に対して、英語調査についての意見を聞くよう市町教委と校長会に要請しました。

★市町教委と校長会への人事異動の申し入れ書と後期要請書の全文は、尾北教労のホームページからご覧になれます。  
（「尾北教労」で検索）  
人事異動に関することや職場で困ったことなども、ホームページのメール等でご相談ください。